

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 おれんじ緑園		
○保護者評価実施期間	2026年1月20日		2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専用に作られた建物で、バリアフリーになっており、広さも確保できている。	様々な特性をもった児童が過ごしやすい環境である。法人で広場を保有しており、運動場でのびのびと身体を動かしたり、動物たちと触れ合いができることが最大の利点となっている。	児童全員が気持ちよく利用できるように、広場ではルールを守り楽しめるように声掛けしていきたい。デイルームは玩具を片づける場所を明確に示すことで、自発的に動けるように整備していく。
2	勤続年数が高い職員が多いため、信頼関係が築けており、協力体制が整っている。	一人ひとりが意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。定期的に支援者会議を開催しているが、日々の中でも情報を共有することを心がけており、統一した支援を目指している。	毎日の打ち合わせや振り返りの時間を確保することは難しいが、限られた時間の中で声を掛け合い、より充実した支援ができるようにしていきたい。非常勤職員への伝達で認識の違いが生じないように、確実に伝えられるよう努力を続けていく。
3	児童の状況に合わせた最善の支援を考えながら、一人ひとりと向き合っている。	それぞれの児童に合わせて、「何が必要か」、「何が困っているか」などを見極め、個別に成長を見守っている。統一したプログラムはなく、一人ひとりと丁寧に向き合いながら温かい支援を提供している。	生活面やコミュニケーション面において、協調性を身につけたり、他者と一緒に過ごすことに喜びを感じられるような活動を提案していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能型事業所で、児童発達支援の児童の割合が少ない。	児童の成長と共に、放デイの割合が大きくなり過ぎている。放デイの需要に対して、児童発達支援の問い合わせが少ないため、事業所の強みを積極的に発信していく必要がある。	現在、新規に受け入れる児童は児童発達支援のみとしている。ホームページやパンフレット等で集客するなど、たくさんの方におれんじ緑園を知ってもらえるように努力を続けていきたい。
2	幅広い活動プログラムの提案に難しさを感じている。	児童からの活動の要望に対して、できる限り受け止めるように努めている。自分の気持ちが相手に伝わる成功体験を大切にしているが、反面、発信が難しい児童への寄り添いが不十分と感じている。職員数により、戸外活動が難しい場面もある。	休業日の活動においては、実費負担での余暇活動を取り入れることを継続していきたい。新しいプログラムを模索しながら、児童一人ひとりが楽しみや喜びを味わえるように工夫が必要だと感じる。
3	緊急時や防犯に関するマニュアル等が、保護者や非常勤職員に十分に周知されていない。	個々の緊急時の事柄については対応できていると感じる。事業所全体にかかわる事態が起きた際の、手順の整備をする必要がある。	緊急時の対応については、保護者にマニュアルを提示しながら、丁寧に説明していく。避難訓練は行っているが、起こりうる災害やトラブルを見据えながら、様々なパターンの訓練を実施していきたい。